PLANET ZERO

※内容にアフタ2010年8月号ネタばれを含みます。

2010.8.22
TAKE FREE

インテはじめてまして、のPLANET ZERO　鷹村あいです。大阪には今まで何度も来たことあるのですが、インテはお初です。
よろしくお願いしあっす！の無配本です。

ここ最近のアフタに心躍らせる私は、エコ同人なハマイズっこだなあと思います。
そんな大阪NIGHTな話です。

2010.8.22　鷹村あい

http://planetzero.nobody.jp/furi/
ai@planetzero.halfmoon.jp

明日の朝は早い、と思っていても寝付けない。
泉は隣のベッドで横になっている栄口の様子をそっと伺う。
（もう、寝た……よな？）
夜行バスで早朝大阪にやってきて、この夏一度も負けなかった学校同士の試合を見て、午後からは知らない土地のグラウンドで汗を流した。
身体はくたくただ。
でも妙に目が冴えている。
泉はしばらく隣の様子を伺うと、予めベッドの中に持ち込んでいた携帯のフリップを開く。普段意識したことのないバックライトの明るさに一瞬ぎょっとして、またチームメイトの様子を探った。
別に何も悪いことはしていない。明日は早くからほかの学校と合同練習だし、そこには当然二年生がいるのだから気を抜いてると「やっぱり一年ばっかりのチームはダメだ」とか思われそうだ。それはイヤだから、しゃんとしていたい。
だが、大阪の夜は泉を寝かせてくれないから仕方がない。
電話の着信履歴の一番上の名前から、通話ボタンを押した。

「……泉？」

携帯の向こうの声に、なんだかぎゅっとなるのは旅先の夜だからなのだろうか。
「あんま、大きい声出せねーんだ。隣で栄口が寝てっから」
声を潜めてそう言うと「なんか、その言い方がやらしくてムカつくんだけど」と声が返った。
「浮気して んじゃね ーよな？」
「いっくん死ね。ありえねーこと言うな」
「……ごめーん」
布団を頭までかぶって、泉は沸騰する。
浜田は泉の密やかな興奮に、あー、なんか今オレ幸せなことを言われた」というより
「いいから寝ろ。いくら最近暑いからってワンピャねーつの」
「……ごめーん。ありえねーこと言うな」
泉はその質問に一瞬、黙り込む。
「そこ？　甲子園、どうだったか？」
「ベンタイ」
オレは野球小僧じゃない泉は今んとこ興味ねーかも」
「ちげーよ。悪い悪い。泉だから、仕方ないの。何べんも言ってっだろ？」
「……それは、悪いとおもう。夏だから、仕方ないの。何べんも言ってっだろ？」
くらい」
「いいから寝ろ。ありえねーこと言うな」
「……ごめーん。ありえねーこと言うな」
泉はその質問に一瞬、黙り込む。
今日見たかりの青い空とひじりの焼けた入道雲と、フェンス一枚向こうのあまりにも遠い緑と土を思い出す。

陽光の照り返しだけではない。

「なんか、すごかった」

「なんかさ、なんかこー、でけーの。そんで……すげー……すげーんだ」
「……」
「なんかさ、なんかこー、でけーの。そんで……すげー……すげーんだ」
「……」
「……」
「……